

2018

社会福祉法人健翔会 新年のご挨拶



平成30年1月5日

理事長 渡辺 弘

健翔会本部

2017年の報告

2017年1月

評議員選任解任委員会
新評議員を選任

2017年2月

評議員会・理事会
平成29年度予算審議
平成28年度補正予算審議

2017年3月

障害児通所支援事業開始

2017年4月

太陽光発電事業開始

2017年5月

監事監査
理事会 平成28年度決算

2017年6月

評議員会 平成28年度決算
新理事選任

2017年11月

理事会 中間報告
定款変更
就業規則改正

2018年の予定

2018年2月

理事会
平成30年度予算審議
平成29年度補正予算審議

2018年5月

監事監査
理事会 平成29年度決算

2018年6月

評議員会
平成29年度決算承認

2018年11月

理事会 中間報告



平成29年6月 評議員会



2017年のクリスマス会にて

クリスマス会の参加者が123名となり、
もっと大きい施設が必要になったと笑顔
で語る理事長。

新年のスタートに当たり、ご利用者(児)の皆様、ご家族の皆様、そして役員
の皆様に年頭のご挨拶を申し上げます。

埼玉県行田市では穏やかな天候となった今年の元旦、私はゆっくりと自宅で過ごしました。元旦には群馬県をほぼ一周する実業団の「ニューイヤー駅伝」、2日、3日には「箱根駅伝」をテレビで観戦しました。今年の箱根駅伝は青山学院大学が総合4連覇。この青山学院大学の原監督の就任は2004年だそうです。弱小チームであった同大学を、総合4連覇するチームに育て上げられました。古い体質のチームに新しい風を吹き込

み、人材、選手が育つ環境づくりから始め、就任11年目にして悲願の優勝、その後4年連続の優勝ができるチームになりました。選手が育つまで10年以上の時間が必要だったとのこと。

2007年に産声を上げた私たち健翔会も、2017年6月には203名の皆様にお集りいただき10周年記念式典を盛大に開催することができました。本当にありがとうございました。

2017年(平成29年)の地域・国内・世界の出来事



2017年の行田市は行田の産業である「足袋」をテーマにしたTBS日曜ドラマ「陸王」でとても盛り上がりました。

始まりは2016年の夏のことです。池井戸潤氏の「陸王」が発売されました。本の色が藍色なので、発売した時の市内の書籍店の店頭は藍色に染まりました。

「陸王」は「足袋」の老舗工場の社長を中心としてランニングシューズを作る話です。ドラマでは、新規事業への参入の難しさ、資金繰りの大変さを乗り越え、ランニングシューズ作りを目指す社員、家族、仲間とチームを作り、次々に起こる問題を解決していくドラマです。「時代とともに衰退していく老舗」を「これからは活躍する老舗」へと変貌させる、やる気にさせるドラマでした。

日本国内では、前人未到の藤井四段の29連勝で大いに沸いた将棋界。森友学園、籠池問題も小学校の認可取り消し、国会の証人喚問でも決着せず、問題が長期化しています。2017年が終わろうとしていた12月には横綱日馬富士による傷害事件が連日ワイドショーを賑やかしていました。

一方とても気になる事件も発生しました。神戸製鋼、日産自動車をはじめとする品質に対する偽装の問題です。注文数量、納期等の問題で言い逃れできません。日本製の品質に対して取り返しのつかない深い傷となりました。

世界に目を向けると、1月にアメリカ第一主義を掲げたトランプ大統領が就任、世界中に影響を及ぼしました。また、ISによるパリ・ロンドン・ロシア・ジャカルタなど世界中でテロが横行し、日本人も犠牲になるなどその対策が急がれました。アジアでは、北朝鮮による大型ミサイルの発射試験が繰り返され、日本の要所に迎撃ミサイルを配置するなど対応を余儀なくされ、不安をかき立てる「アラート」が鳴り響いた地域もありました。



平成 29 年 10 月
運動会で優勝旗贈呈を行う



平成 29 年 11 月 理事会



平成 29 年 12 月 クリスマス会

事業の紹介

障害福祉サービス事業

麦の穂

大地

障害児通所支援事業

にじいろ

障害児(者)生活サポート事業

生活サポート麦

障害児(者)日中一時支援事業

日中一時支援 大地

収益事業

太陽光発電事業

2017年(平成29年)の健翔会を振り返る

2017年の健翔会は、長期的な視点に立った経営を行うことを主眼に活動して参りました。これにより、いくつかの事業がスタートしました。

一つ目は障害のある子どもたちへの支援となる「障害児通所支援事業の内、放課後等デイサービス」を開始いたしました。健翔会の理念である地域で自立する障害者を目指し、年齢や発達の状況に合わせた個別課題を解決していくための方法を学習していく事業です。

二つ目は健翔会の理念である「自立した経営基盤の強化」を目指し財務の改善を目的として、他の社会福祉法人ではほと

んど行っていない「収益事業」を開始しました。この投資により20年後まで、収益事業からのリターンにより施設の修繕費の一部を賄う計画です。社会福祉法人といえども、事業に投資し財務改善を図っていく必要がある時代になったと思います。

2017年は社会福祉法人の制度改革が実施された年でもあります。前述のように、社会福祉法人といえども自主自立した経営を進めることが求められました。これにより、現役職員である課長3名を理事に迎え、また決議機関としての評議員も1名増員し8名とするなど、新しい健翔会のスタートとなった1年でもありました。

2018年(平成30年)への思い

2018年は「戌年」です。干支の十二支は動物の名前で覚えやすくしてありますが、実は植物の一生を漢字で表したものです。「戌」は植物が枯れて土に返る状態で、収穫したものを倉に蓄えている状態を表しています。なので、「戌年」は今の健翔会にぴったりです。

設立10年を経て行ってきた様々な活動、支援に対する効果や成果があり、ご利用者(児)の人数も増えました。今までの活動がノウハウとなり、次の活動を準備している状態です。

大切なのは進んでいることです。常に動いていることです。海は常に波が立っています。大小の波が打ち寄せる海岸は、地形が変化するほどになります。健翔会も5年後には海の波が海岸線を変化させるほどの変化が表れるはずですよ。

< 職員の皆さんへのお願い >

ノウハウを蓄えているときです。支援の品質の維持・向上のため、「基本を守り、原則に立ち戻る」をお願いしたいと思います。ヒヤリハットの報告を聞くと、よりよい支

援を目指した結果でヒヤリハットが起こっているように思います。送迎、食事、受入れ、服薬など基本を守り、原則に立ち回り対応するようにしてください。

職員一人一人のスキルアップとしての資格取得も進めてほしいです。自分の能力をきちんと発揮できるチャンスがあれば、臆さず取り組んでください。

情報を共有することが大切です。「陸王」のように一つの目的に対して、チームを作って取り組んでください。そうすることで、様々な難題も解決できるようになると思います。

健翔会はこの11年間、成長を続けてきました。引き続き成長をしていくためには、職員の皆さんの仕事に対する思い入れが必要です。こんな支援がしたい、こんな仕事がしたいという考えをもって勤務してください。

毎年お願いしていることですが、働くうえで重要な合言葉を忘れないでください。それは「私たちは役に立っているのか?」です。そして、コンプライアンスを守り、健翔会の職員として社会的責任を果たせるようになりましょう。

おわりに

2018年もみんなでワクワクするような仕組み、仕掛けを考えて、失敗を怖がらずに、準備周到に実行していきましょう。うまくいなくても、それが「ノウハウ」です。同じ失敗を繰り返さなければいいのです。そのためにも、記録を残し、見返し、次回のワクワクプランを立てましょう。これが「前に進んでいる」「常に動いている」ということです。

職員の皆さんの成長はご利用者のためになることです。ご家族の皆さんは職員が成長していくように叱咤激励をお願いします。

今年も皆さんにとって良い年でありますように祈念し、年頭のご挨拶といたします。

社会福祉法人健翔会

〒361-0007

埼玉県行田市小見 1141 番地 1

電話: 048-554-8815

FAX: 048-554-8814

URL: <http://kenshokai.net>

Facebook:

<https://www.facebook.com/kenshokainet>

kainet

E-Mail: info@kenshokai.net